

「中学校へのパスポート」を用いた 小学校言語活動一覧作成の試み：4技能編「道案内」

Developing an Inventory of Language Activities for Primary Schools Using the “Passport to Junior High School”:
Focus on “Giving Directions” in the “Four Skills” Section

米田佐紀子

Sakiko Yoneda

要旨：本研究は小学校英語における言語材料や題材に合致した言語活動の一覧を作成する研究の一部として行われた。具体的には、『小学校英語学習到達目標としての総括的自己評価記述文(中学校へのパスポート) 児童による「自己評価シート」指導資料(試用版)』(JACET教育問題研究会, 2022)を使用し、「道案内」というテーマの4技能5領域に焦点を当てた言語活動を作成し、現場教員にインタビューの中で使いやすさについてたずねた。その結果、児童の生活に根差した言語活動の構想は一定評価できるものの、児童の言語能力と言語材料とのすり合わせや、児童にはもっと多くのパンプラクティスのような練習が必要なことなどが示された。また技能に文化の要素を取り込む可能性も示唆された。

キーワード：「中学校へのパスポート」、言語活動、小学校英語

1. はじめに：研究の背景と動機

2020年度より小学校、順次中学校(2021年度)、高等学校(2022年度)で実施された『学習指導要領』はヨーロッパ共通参照枠(以下、CEFR)を参照し、「何ができるようになるか」という観点から、小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)別の目標を設定」を明記している(文部科学省(以下、文科省), 2017: 4)。今回の改訂では、小学校において音声中心で学んだことが中・高等学校に円滑に接続されるよう、言語活動をとおして指導されることが求められている(文科省, 2021)。小学校では、中学年に新たに外国語活動が導入され、「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の3つの領域が設定された。音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成の上に、「読むこと」「書くこと」を加えた教科として高学年に外国語科が導入された。高学年では、5つの領域の言語活動を通じてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められている。

その一方で筆者が関わっている学校現場では、「言語材料を定着させるための意味のある活動」作りに苦しんでいるという声を聞く。また、「活動に意味がない」「必要以上に同じことを繰り返している」「ねらいと活動がずれていると感じても、代案を考える時間も無く、どこを探せばよいか分からない」と言う。外国語指導助手(ALT)に授業を指導案作りから全て任せている場合には、突然のキャンセルがあった時には、他の授業に変更することもあるという。忙しい中でも言語材料・題材で検索できる活動一覧があれば、すぐにでも欲しいという強い要望があり、本研究に至った。

2. 「言語活動」の定義と授業内での扱いについて

文科省（2021）が示している言語活動の定義と授業での扱い方をまとめる。まず、言語活動の定義であるが、次の3つのポイントにまとめられる：①実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う、②言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別する、③言語活動の中では思考力、判断力、表現力等と英語に関する知識及び技能を児童は活用する。

では、この言語活動をどのように作れば良いのだろうか。文科省（2021）では、単元末に持ってくるのではなく、①1時間目から授業の中心を「言語活動」にする、②児童生徒に言語活動に取り組ませながら指導する、③単元終末に求められる姿（言語活動を行う姿）に向けて、児童生徒が意欲を高められるようなコミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定をするとともに、常にその目的や場面、状況を意識させること、と述べている。

上記のような指導を実践するために、「指導するために求められること」として、次の6つのポイントを挙げている（文科省，2021）：

- ① 単元などの内容のまとまりで力を付けるという意識を持つ。
- ② 確かな教材研究：子供の既習語句や表現、教科書等に設定されている言語材料や様々な活動を把握する。
- ③ 深い子供理解・学習規律：子供の興味・関心、他教科等での学習内容等、どの子供にどんな質問や声掛けをすればいいかが分かり、「学習集団」づくりをする。
- ④ 言語習得への意識：言葉は、使いながら使えるようになるという意識を持つ。
- ⑤ 授業形態：子供とのやり取りや子供同士によるやり取りにより授業を実践する。
- ⑥ 英語力：子供とやり取りができる英語力を持つ。

学習指導要領が示している言語活動例は文科省（2019：171）で確認することができる（補遺 資料1）。中学校・高等学校の免許（英語）を持っている英語専科であれば、対応できると考えるが、小学校免許（全科）だけの学び、あるいは英語の免許があっても全科を担当する担任には負担が大きいと考える。

3. 先行研究

JACET教育問題研究会（2022）は児童自身が自分の学びを振り返ることができる『小学校英語学習到達目標としての総括的自己評価記述文（中学校へのパスポート）児童による「自己評価シート」指導資料（試用版）』（以下、「中学校へのパスポート」）を作成した。これにより教師が「外国語科」で何を学ぶのかを俯瞰でき、トピックや言語材料も確認しながら、児童とねらいを共有することができる。

本田・星加・田所（2018）は小学校英語デジタル新教材『We Can!』の語彙を分析した。本研究では、中国、韓国、台湾の初等外国語（英語）指導要領の教育語彙を参照して、小学校英語デジタル教材『We Can!』で使用されている語彙を検証した。結果として、①名詞と前置詞を一緒に（チャンクとして）出現させる傾向がある、②名詞が多く、海外の語彙リストより動詞が少ない、③シンタグマティックな語彙知識を深めることが課題、④指導書には多様な表現があるため、教員による偏りを補う工夫が必要であることを指摘している。移行期教材における言語材料の課題が浮き彫りにされた。

村野井（2018）は学習項目や目標表現が持つ意味や機能、使用場面が理解できないと、学習がつまらなくなったり、英語嫌いになったりする可能性があるとし、必然性があり達成感が持てる言語活動の重要性を述べている。奥平・赤沢（2022）は『「言語活動」を大切にしたい授業～小学校でできること』として、勤務先

小学校のグランドデザインをもとに、小中連携の視点から「①必然性、②ほんもの、③相手意識、④コミュニケーションの楽しさ」がある言語活動を実施した。その結果、言語面では語数や分量が徐々に増え、発話内容では深まりが出たことを報告している。ここから言語活動のトピックは自分事化で本音を語らせることが重要であると結論づけている。

加藤他（2021）は『小学校外国語活動・外国語 にとっておきの言語活動レシピ』の中で、理論を述べた後、4技能5領域について現場教員の事例を紹介している。また英語が得意ではない教員や児童のために、対象学年、身に付けたい力、活動のねらい、主な英語表現・語彙、詳しい手順・板書例、活動のポイントを示した。また、加藤（2019）は現行学習指導要領の方針にも沿った活動を扱っており、現場で参考にできるものになっている。

米田（2022）は文科省が示す言語活動の要素に multiple intelligences など指導上必要だと筆者が考える要素も加味し、チェックリストを作成した（補遺 資料2）。このチェックリストのねらいは、指導者が言語活動に必要な要素を取りこぼすことなく、また、スムーズに言語活動を作成することができることである。筆者は、自身が担当した「外国語（英語）指導法」で学生たちに使用してもらい、使い勝手が良いことも確認している。

上記の先行研究は多くあるものの、いずれも教科書のトピックや言語材料から言語活動を見つけたいという希望に沿うものではない。そこで本研究では、言語材料ごとの一覧表を作成し、今後現場の教員に試してもらい、有効性を検証しようとするものである。本論文では「道案内」のトピックを扱う。

4. 本研究のねらい

先行研究を踏まえ、JACET教育問題研究会（2022）が作成した「中学校へのパスポート」を用いて、13項目あるトピックのうち、「道案内」に絞り、4技能5領域の言語活動を作成・提案し、現場での活用のしやすさを確認する。確認方法であるが、現場の小学校教員にインタビューの中で示し、意見を求める。なお、「道案内」は現行の検定教科書6社全てが5年生の教科書で扱っている（東京書籍、2022、開隆堂、2022、光村図書、2022、教育出版、2022、三省堂、2022、啓林館、2022）。

5. 「中学校へのパスポート」とは

「中学校へのパスポート」とは、小学校での英語の学習指導において、児童が自分の学びを振り返り、評価する機会を提供するツールであり、JACET教育問題研究会の教育問題研究会によって作成された（JACET教育問題研究会、2022）。正式名称は『小学校英語学習到達目標としての総括的自己評価記述文（中学校へのパスポート）児童による「自己評価シート」指導資料（試用版）』と言う。小学校における英語学習到達目標として、児童が自分で評価する記述文（Can-Do）を提示している。各ユニット4技能5領域について、具体的な自己評価記述文が話題別に設定されている（表1）。

表1 4技能編 トピックと自己評価記述文一覧

	トピック	聞く	話す	やり取りする	読む	書く
1	道案内	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置、行き先、道順について聞き取る。	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置、行き先、道順について整理して話す。	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置、行き先、道順について、質問したり、質問に答えたりして伝え合う。	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置、行き先、道順について書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、地図や場所カードなどを見て、ものや場所の位置、行き先、道順について書ける。

2	自己紹介	話し手のあいさつや名前、出身地（国）、誕生日、好きなこと、得意なこと・できること・やりたい職業などについて聞き取る。	自分の名前、出身地（国）、誕生日、好きなこと、得意なこと・できること、やりたい職業などについて整理して話す。	あいさつを交わし、自分や相手の名前、出身地（国）、誕生日、好きなこと、得意なこと・できること・やりたい職業などについて、質問をしたり質問に答えたりして、伝え合う。	名前、出身地（国）、誕生日、好きなこと、得意なこと・できること、やりたい職業などについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分の名前、出身地（国）、誕生日、好きなこと、得意なこと・できること、やりたい職業などについて書ける。
3	日常生活	話し手の住んでいるところ、通っている学校、一日の生活（起きる時間などの日課）、休日などに行うことや大切にしているものなどについて聞き取る。	自分が住んでいるところ、通っている学校、一日の生活（起きる時間などの日課）、休日などに行うことや大切にしているものについて整理して話す。	自分や相手の住んでいるところ、通っている学校、一日の生活（起きる時間などの日課）、休日などに行うことや、大切にしているものについて、質問したり、質問に答えたりして、伝え合う。	住んでいるところ、通っている学校、一日の生活（起きる時間などの日課）、休日などに行うことや大切にしているものについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が住んでいるところ、通っている学校、一日の生活（起きる時間などの日課）、休日などに行うことや大切にしているものについて書ける。
4	町の紹介	話し手が紹介する町とそこにあるもの、その様子、そこでできることなどの特色や感想について聞き取る。	自分が住む町とそこにあるもの、その様子、そこでできることなどの特色や感想について整理して紹介する。	自分や相手が紹介する町とそこにあるもの、その様子、そこでできることなどの特色や感想について、質問したり、質問に答えたりして、伝え合う。	教科書などに紹介されている町とそこにあるもの、その様子、そこでできることなどの特色や感想について書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が住む町とそこにあるもの、その様子、そこでできることなどの特色や感想について書ける。
5	日本文化紹介	話し手が紹介する日本の季節ごとの行事と、そこでできることや食べ物とその特徴について聞き取る。	外国の友だちや外国からの観光客などに日本の季節ごとの行事と、そこでできることや食べ物とその特徴について整理して紹介する。	自分や相手が紹介したい日本の季節ごとの行事と、そこでできることや食べ物とその特徴について、質問をしたり、質問に答えたりして、伝え合う。	日本の季節ごとの行事と、行事でできることや食べ物とその特徴について書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、日本の季節ごとの行事と、行事でできることや食べ物とその特徴について書ける。
6	行ってみたい世界の国・地域	話し手が行ってみたい国や町、そこで行きたい場所（観光地など）、見たいもの（動物など）、食べたいもの、買いたいものについて聞き取る。	自分が行ってみたい国や町、そこで行きたい場所（観光地など）、見たいもの（動物など）、食べたいもの、買いたいものについて整理して話す。	自分や相手が行ってみたい国や町、そこで行きたい場所（観光地など）、見たいもの（動物など）、食べたいもの、買いたいものについて、質問をしたり、質問に答えたりして、伝え合う。	行ってみたい国や町、そこで行きたい場所（観光地など）、見たいもの（動物など）、食べたいもの、買いたいものについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が行ってみたい国や町、そこで行きたい場所（観光地など）、見たいもの（動物など）、食べたいもの、買いたいものについて書ける。
7	夏休みの思い出	話し手が夏休みに行った場所、したこと、見たこと、食べたものや感想などについて聞き取る。	自分が夏休みに行った場所、したこと、見たこと、食べたものや感想などについて整理して話す。	自分や相手が行った場所、したこと、見たこと、食べたものや感想などについて、質問したり、質問に答えたりして、伝え合う。	夏休みに行った場所、したこと、見たこと、食べたものや感想などについて書かれた文を読んで分かる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が夏休みに行った場所、したこと、見たこと、食べたものや感想などについて書ける。
8	人物紹介	話し手のあこがれの人（ヒーロー、世界で活躍する人、など）とその人の職業、得意なことやできること、性格などについて聞き取る。	自分のあこがれの人（ヒーロー、世界で活躍する人、など）とその人の職業、得意なことやできること、性格などについて整理して話す。	自分や相手のあこがれの人（ヒーロー、世界で活躍する人、など）とその人の職業、得意なことやできること、性格などについて、質問をしたり、質問に答えたりして伝え合う。	あこがれの人（ヒーロー、世界で活躍する人、など）とその人の職業、得意なことやできること、性格などについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、あこがれの人（ヒーロー、世界で活躍する人、など）とその人の職業、得意なことやできること、性格などについて書ける。

9	自然と環境	教科書などに出てくる生き物の暮らす場所、食べもの、様子や特徴などについて聞き取る。	教科書などに出てくる生き物の暮らす場所、食べもの、様子や特徴などについて整理して話す。	教科書などに出てくる生き物の暮らす場所、食べもの、様子や特徴などについて、質問したり、質問に答えたりして伝え合う。	教科書などに出てくる生き物の暮らす場所、食べもの、様子や特徴などについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などに出てくる生き物の暮らす場所、食べもの、様子や特徴などについて書ける。
10	食生活	食べたい料理のメニューとその値段、前の日に食べたもの、ふだん食べているもの、食材の産地、食材の栄養素のグループについて聞き取る。	自分が食べたい料理のメニューとその値段、前の日に食べたもの、ふだん食べているもの、食材の産地、食材の栄養素のグループについて整理して話す。	自分や相手の食べたい料理のメニューとその値段、前の日に食べたもの、ふだん食べているもの、食材の産地、食材の栄養素のグループについて、質問したり、質問に答えたりして伝え合う。	食べたい料理のメニューとその値段、前の日に食べたもの、ふだん食べているもの、食材の産地、食材の栄養素のグループについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が食べたい料理のメニューとその値段、前の日に食べたもの、ふだん食べているもの、食材の産地、食材の栄養素のグループについて書ける。
11	小学校の思い出	相手の小学校生活で思い出に残る行事やできごと、行った場所やしたこと、見たもの、食べたもの、楽しんだことなどについて聞き取る。	自分の小学校生活で思い出に残る行事やできごと、行った場所やしたこと、見たもの、食べたもの、楽しんだことなどについて整理して話す。	自分や相手の小学校生活で思い出に残る行事やできごと、行った場所やしたこと、見たもの、食べたもの、楽しんだことなどについてその場で質問をしたり、質問に答えたりして伝え合う。	小学校生活で思い出に残る行事やできごと、行った場所やしたこと、見たもの、食べたもの、楽しんだことなどについて、書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、思い出に残っている行事について、学校行事シートなどに行ったところ、したこと、感想について書ける。
12	将来の夢	話し手が将来になりたい職業と、その理由として、好きなこと、できること、得意なこと、などについて聞き取る。	自分が将来になりたい職業と、その理由として、好きなこと、できること、得意なこと、などについて整理して話す。	自分や相手が将来になりたい職業と、その理由として、好きなこと、できること、得意なこと、などについて、質問したり、質問に答えたりして伝え合う。	将来になりたい職業と、その理由として、好きなこと、できること、得意なこと、などについて書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、自分が将来になりたい職業と、その理由として、好きなこと、できること、得意なこと、などについて書ける。
13	中学校生活への期待	話し手が中学校で入りたい部活動、がんばりたい科目、楽しみたい行事などとその理由について聞き取る。	自分が中学校で入りたい部活動、がんばりたい科目、楽しみたい行事などとその理由について整理して話す。	自分や相手が中学校で入りたい部活動、がんばりたい科目、楽しみたい行事などとその理由について、その場で質問をしたり、質問に答えたりして伝え合う。	中学校で入りたい部活動、がんばりたい科目、楽しみたい行事などとその理由について、書かれた文を読んでわかる。	教科書などの例文を参考にしながら、中学校で入りたい部活動、がんばりたい科目、楽しみたい行事などとその理由について書ける。

6年生の教科書に記載された目標とその言語材料をCan-Doで示すことで、小学校での学びが俯瞰できれば、中学への橋渡しになると考えられたため、小学校での英語学習から中学校での学習にスムーズに移行できるレベルを設定し、「中学校へのパスポート」としている。表1以外に「自己評価項目と英語構文・表現・語彙のトピック別対応表」や「文化編」もあるが、紙面の関係上、ここでは「道案内」に絞って論じる。活動については、学習指導要領「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校別段階別一覧や他の資料を参考としている。

6. 言語活動案：道案内

6.1 4技能編の自己評価項目と英語構文・表現・語彙のトピック別対応表（道案内）について

道案内の自己評価記述文と表現・語彙は以下のとおりである（表2）。左から領域、自己評価項目、構文・表現、語彙の順になっている。

表2 4技能編「自己評価項目と英語構文・表現・語彙のトピック別対応表」道案内

領域	自己評価項目	構文・表現	語彙
聞く	地図や場所カードなどを見ながら、話している人が述べているものや場所の位置を聞き取れる。	It's [by / in / on / under] the Is this the symbol for a school?	【位置】 at, on, in, under, by 【動作など】 see, turn 【方向】 straight, right, left 【場所、施設など】 block, symbol, hospital, police station, post office, bookstore, convenience store, department store, fire station, gas station, park, restaurant, school, station, supermarket 【身の回りの物・文房具】 chair, table, desk, bed, box, ball, pencil, cap, book
	地図や場所カードなどを見ながら、話している人の行き先を聞き取れる。	Where is [place]? I want to go to [place].	
	地図や場所カードなどを見ながら、話している人の行き先までの道順を聞き取れる。	Go straight for ... block(s). Turn [right / left]. You can see it on your [right / left].	
話す	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置を言える。	We have ... in our town. It's [by / in / on / under] the	
	地図や場所カードなどを見ながら、行き先を言える。	Where is [place]? I want to go to [place].	
	地図や場所カードなどを見ながら、行き先までの道順を言える。	Go straight for ... block(s). Turn [right / left]. You can see it on your [right / left].	
やり取りする	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置について、友達などとたずね合える。	Where is [place]? It's [by / in / on / under] the Is this the symbol for a school?	
	地図や場所カードなどを見ながら、行き先について、友達などとたずね合える。	Where is [place]? I want to go to [place].	
	地図や場所カードなどを見ながら、友達などと道案内のやり取りができる。	Go straight for ... block(s). Turn [right / left]. You can see it on your [right / left].	
読む	地図や場所カードなどを見ながら、ものや場所の位置が書かれた文を読んでわかる。	We have ... in our town. It's [by / in / on / under] the	
	地図や場所カードなどを見ながら、行き先が書かれた文を読んでわかる。	Where is ...? I want to go to	
	地図や場所カードなどを見ながら、行き先までの道順が書かれた文を読んでわかる。	Go straight for ... block(s). Turn [right / left]. You can see it on your [right / left].	
書く	教科書などの例文を参考にしながら、地図や場所カードなどを見て、ものや場所の位置について書ける。	It's [by / in / on / under] the	
	教科書などの例文を参考にしながら、地図や場所カードなどを見て、行き先について書ける。	Where is [place]?	
	教科書などの例文を参考にしながら、地図や場所カードなどを見て、行き先までの道順が書ける。	Go straight for ... block(s). Turn [right / left]. You can see it on your [right / left].	

6.2 表現・語彙を中心とした言語活動案

本節では日常生活の中で児童が遭遇する場面と英語表現を結び合わせ、自分ごととしてとらえられるようになるような言語活動を提案する。5領域について言語活動を実践者が分かりやすいように、(1)活動の目的・場面や状況、(2)教材、(3)指導の流れ、(4)解説を示した。以下に示す言語活動案は、一度筆者が作成した活動を、現場教員の助言に基づいて修正したものである。助言内容であるが、アイデアとしては使えるが、現実性にこだわりすぎると児童には難しいので、設定を変えるとともに活動もシンプルにする必要があるとのことだった。この助言を受けて、特に読み書きの部分で修正を行った。

【聞くこと】

- (1) 活動の目的・場面や状況：ALTの先生が忘れ物をして電話をしてきたので、忘れ物を見つけてあげる。
- (2) 教材：『NEW HORIZON Elementary English Course 5』（東京書籍, 2020: 48）デジタル教科書
- (3) 指導の流れ：(JTEは日本人教師、ALTは外国語指導助手で英語話者)

JTE: ALTの先生が自分の部屋に忘れ物したので持ってきてほしいと電話してきました。何を忘れたのか

よく聞いてください。

デモンストレーション

(ALTもJTEも電話を持つ。JTEはデジタル教科書の前に立つ。)

ALT: (RRRRR) Hello.

JTE: Hello.

ALT: I need a pencil. I am in a hurry.

JTE: Okay. Where is your pencil?

ALT: It's on the desk.

JTE: I found it. (指差しして)

ALT: I need a book, too.

JTE: What color is the book? (沢山あるので困った表情をする)

ALT: It is green.

JTE: Where is it?

ALT: It is in the bag.

JTE: I found it.

ALT: Thank you very much.

- (4) 解説：聞くことの「練習」として位置づけられている『NEW HORIZON Elementary English Course 5』（東京書籍, 2020: 48）（以下、NHE）のYour Turnを言語活動にしたものである。視点を変えると自分には関係ない人の部屋だと思っていたものが、意外と現実世界に即した言語活動になる。

デジタル教科書の画面を使い、指し示しながら忘れ物を確認する。答えを実物で示せば、児童の動機付けも上がるだろう。本活動は小学校の研修会で提示したものであるが、研修会では理科室、体育館など児童の生活場面の提案もあった（米田, 2022）。

【話すこと（発表）】

- (1) 活動の目的・場面や状況：自分のお気に入りの場所までの道について地図を示しながら紹介する。

- (2) 教材：NHE 5（東京書籍, 2020: 46-47）デジタル教科書

- (3) 指導の流れ：

JTE: 例文を読んで地図を見せながら、自分のお気に入りの場所までの行き方を友達やALTの先生に説明しましょう。

《例文》

It's Obon. Let's go to the temple. Go straight for two blocks. Turn left at the gas station. Go straight for one block. Turn left. You can see it on your left.

- (4) 解説：本活動はShow & Tellを使用した言語活動案である。自分のお気に入りの場所を選び、下線部を入れ替えて、発表できるようにする。どうしても好きな場所がなければ、自由に選ばせても良いだろう。地図はブロックが分かる碁盤の目のように単純なものが良い。

【話すこと（やりとり）】

本活動はinformation gapの手法を用いたやり取りである。

- (1) 活動の目的・場面や状況：友達と協力して、自分の住む町（架空）の地図を完成させる。

- (2) 教材：白地図（模造紙、Google Jamboard、パワーポイント等を活用）と場所のカード、ワークシートと絵カード（AとB）

- (3) 手順：16か所の場所カードを2等分して、AとBに分ける。Aの地図にはBの8か所、Bの地図にはAの場所を表示する。スタート地点を決めておき、そこからスタートするよう伝える。

デモンストレーション

ALT: I want to go to the gas station.

JTE: Go straight for two blocks. You can see it on your left.

ALT: Thank you very much. (gas stationのカードを地図上に置く)

※上記のやり方で交互に実施する。

- (4) 解説：児童のレベルによって文を減らしたり増やしたりすると良い。また、自分の家を書き加え、自分の身の回りの物にするなどの工夫ができる。

【読む】

- (1) 活動の目的・場面や状況：ALTの家までの行き方を探し当てる。宝さがしのイメージである。
(2) 教材：ワークシート（テンプレートを紙あるいはGIGA端末で配信）
(3) 手順：

説明

JTE: 引っ越したALTの先生から今度遊びに来てほしいと手紙をもらいました。ペアになって家を探してみましょう。

指導の流れ

- ①手紙を配布する。

Hi. Please come to my house next Sunday. Get off the train at Tamagawa Station. Turn left at the supermarket. Go straight for three blocks. Turn right. You can see my house on your left.
Bye.

- ②分かった人から教壇まで来させる。
③Where is my house?と聞いて、指差しさせる。
(4) 解説：宝探しにして、宝を何個もさがすのも良いし、ペアで取り組ませても良いだろう。

【書く】

- (1) 活動の目的・場面や状況：ALTの先生に招待状を送る。宝探しのヒントづくりのイメージである。
(2) 教材：ワークシート（テンプレート）、白地図 ※これらを紙またはGIGA端末で配布/配信
(3) 手順：

説明/指導の流れ

JTE: 今度誕生日会を開くのでALTの先生を自分の家に招待します。まず、自分の家を各自の地図に書き込んでください。次に、招待状を作成しましょう。ワークシートの空欄を埋めてください。出来上がったら、ALTの先生に渡してください。ALTの先生に読んでもらって、みんなの想定した場所に来てもらえるか確かめましょう。先生に正しく指でその場所を指してもらえたら成功です。

Dear Mr. White,

Please come to my house next Sunday. My house is by our school. Turn left at the supermarket. Go straight for three blocks. Turn right. You can see my house on your left.

Sincerely,

Sakiko

- (4) 解説：読み書きは通常児童の負担になると言われているが、単語を制限し、穴埋めにし、視写で完成できる活動である。最近は海外のペンパルとのやり取りをする小学校もあることから、この活動は現実的な意味を持つと考える。

以上、本章では「中学校へのパスポート」の「道案内」について5領域それぞれの言語活動の提案について述べてきた。次章では現場教員への聞き取り調査について述べる。

7. 現場教員への聞き取り調査

本章では、5年生の教科書で扱われている「道案内」の言語活動を中心として行った聞き取り調査について述べていく。研究協力者は小学校指導経験5年目の小学校教員である。本教員は小学校2種免許状(全科)と中学校・高等学校の1種免許状(英語)を保有している。以前勤務していた小学校では高学年の担任をしつつ、交換授業により1学年約160名の外国語科を担当した経験を持つ。当該教員には筆者が作成した「道案内」についてコメントしてもらうとともに、ご自身の実践や児童の実態等について話してもらった。

当該教員によると、筆者の言語活動はアイデアとしては使えるが、児童には難しいとのことだった。疑似体験をさせるなら、現実世界に合わせると単語が難しくなってしまうので、設定を変えるとともに活動もシンプルにする必要があるとのことだった。この助言を受けて、6章の活動を一部書き直した。次に、当該教員の実践についてもたずねた。以下がインタビュー内容をまとめたものである。

「道案内」のユニット指導実践から感じたこと

- ・児童が楽しみ、また教員にとっても指導しやすいユニットである。ただ、右左、建物など単語数や表現が多いので、地図上のスタートを変えたり、ものの位置を変えたりすることで沢山練習できるようにした。
- ・社会で白地図を作ったことがあったが活用するのは大変だった。
- ・中学校から来た英語教員が教材を作り、残していつてくれたのでそれを活用している。
- ・現実世界に即した活動がネットにも沢山出てくるが、設定や難易度が合わず使うことは難しい。
- ・業者テストが教科書のパターンで出題するので、そこで点数を取らせたい。

※この点について、筆者から①テストのための英語学習になってしまっていないか、②得点が上がれば、子供も動機づけが上がるが、自分ごとになるのかという2点について質問したところ、当該教員はそれらの点について、あまり考えたことはなかったとのことであった。

前置詞の指導

- ・ALTは絵を描くのが上手だったので、ラミネート加工してマグネットをつけた教具を作った。箱の絵や猫の絵などと前置詞を作成し、on, in, under, byの練習をした。
- ・筆者の「練習」を言語活動にするという話を聞いて、そういう考え方があるのかと思った。
- ・児童は食いついてきていたので、自分ごとにしなくても楽しんでいたと考える。

道案内

- ・日本の地図では道が曲がっており英語で表現できないので、さいの目模様の白地図を用意した。
- ・実際の道案内の地図では角ごとにブロック番号を付けた。児童にブロックの意識は無い。
- ・教科書（NHE5, p. 49）を使ったが、地図記号で盛り上がってしまったので、絵の方が良い。
- ・道案内をするときにはスタート地点を決めないと活動ができない。
- ・動機づけを高め身近に感じてもらうために「〇〇先生人形」（〇〇は教員名）というペープサートを作って移動させたが、親近感が湧いたようだった。児童の人形を作らせると時間がかかってしまうので、消しゴムを使用させた。
- ・練習が足りないのでまっすぐな地図のポスターを何枚も作ったり、入り口を変えたり、ものの位置を変えたりして〇〇人形を動かした。同じ表現の練習が飽きずにできて、うまくいったと思う。
- ・聞く時は「どこに行きたいんだろう？」と声掛けをして、何を聞き取れば良いのか支援をした。

書くことについて

- ・授業の最後に5分間取って本時の学びのまとめを整理させる。自分は「5分間のスキルの時間」と呼んでいる。楽しくても活動で疲れたら、落ち着ける活動である。
- ・書かせる目的は授業内に口頭でやったことを文字にすることである。穴埋めではなく文で書かせる。意味も書かせている。
- ・整理する時間ということで児童には人気がある。
- ・児童は書くことは好きで書けると嬉しいと思っている。
- ・『NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary』（東京書籍、2020）（以下、PD）を使って何個でも好きなように作って良いと指示すると、児童は目的の場所を入れ替えたりしている。PDに沢山の好きなものの絵があり、選べるのが良い。
- ・ノートは教員によって持たせたり、持たせなかったりしている。ワークシートだけの教員もいるかもしれない。

当該教員の練習は同じ表現を何度も飽きさせない方法でパンプラクティスのように練習させている。言語活動の目的・場面や状況、相手意識などについて、当該教員はあまり意識していないとのことだったが、「〇〇先生人形」により児童にとって自分ごとになり、聞いたり話したりする目的を持たせているとも考えられる。一方、当該教員によれば、筆者が提案した児童の生活に根差した言語活動の構想は一定の評価ができるものの、児童の言語能力と言語材料、場面設定のすり合わせが必要だとのことだった。

上記に加え、今後は、異文化に絡めた言語活動を作成することも可能ではないかという感想もあった。ここから「中学校へのパスポート」には文化編もあることから、今後その方向で研究を進める可能性も示唆された。

8. まとめ：本研究の成果、限界と今後の展望

本論では理論を確認した上で、「中学校へのパスポート」の「道案内」について4技能5領域の言語活動の試案を作成し、現場教員への聞き取りの中で、試作した言語活動に関する評価・助言、そして教員の実践や児童の実態を話してもらった。児童にはもっと多くのパンプラクティスのような練習が必要なこと、言語活動は児童の実生活にこだわらずシンプルにすることなどが示された。

本研究の成果は「中学校へのパスポート」を用いた言語活動を作成し、その評価と助言を現場教員から得たことである。一方、現場教員が1名だったため、一般化することはできない。今後は本研究を踏まえ、残

る12トピックについても作成・改善を行いながら、現場ニーズに応えられる一覧の作成を目指す。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、厚木市立毛利小学校 押田真裕子先生に現場の視点からご助言をいただいた。心より感謝申し上げる。なお、本研究は科学研究費の支援を受けている（「小学校英語における行動中心主義に根差した語彙・文型・テーマ別言語活動一覧の作成」JSPS 科研費 20K00843（令和2年度～令和5年度）研究代表者：米田佐紀子）。

【引用・参考文献】

- アレン玉井光江、阿野幸一、濱中紀子ほか60名、2020年『NEW HORIZON Elementary English Course 5』東京書籍
- アレン玉井光江、阿野幸一、濱中紀子ほか60名、2020年『NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary』東京書籍
- 奥平明香・赤沢真世、2022年「『言語活動』を大切にしたい授業～小学校でできること」JASTEC 第3回研究大会（兼九州・沖縄支部研究大会）（オンライン）2022年11月22日発表
- 影浦攻ほか59名、2022年『Blue Sky elementary 5』啓林館
- 加藤拓由、狩野晶子、東仁美編著、2021年『小学校外国語活動・外国語 にとっておきの言語活動レシピ』明治図書
- 加藤拓由、2018年『ペア・グループで盛り上がる！英語が大好きになる！小学校英語ゲーム&アクティビティ 80』明治図書
- 金森強、本多敏幸ほか23名、2022年『One World Smile 5』教育出版
- 小泉仁ほか28名、2022年『Here We Go! 5』光村図書
- 酒井秀樹ほか29名、2022年『Crown Jr. 5』三省堂
- JACET教育問題研究会、2022年『小学校英語学習到達目標としての総括的自己評価記述文（中学校へのサポート）児童による「自己評価シート」指導資料（試用版）』<http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/LearnerPortfolio.htm> 2023年6月25日参照
- 本田勝久、星加真実、田所貴大、2018年「小学校英語デジタル新教材 We Can! の語彙分析」『日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要』第37号、pp. 169-185
- 文部科学省、2017年「学習指導要領の改訂等について」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/134/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/09/13/1395611_3.pdf 2023年6月25日参照
- 文部科学省、2019年『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf p. 175 2023年6月27日参照
- 文部科学省、2021年「授業づくりのポイント」https://www.mext.go.jp/content/20211216-mxt_kyoiku01-000008881_003.pdf 2023年6月25日参照
- 村野井仁、2018年『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店
- 米田佐紀子、2022年「子どもの学びにつなげる言語活動」川崎市小学校外国語・国際教育研究会講演（オンライン）2022年1月19日（水）
- 萬谷隆一ほか45名、2022年『Junior Sunshine 5』開隆堂

補遺

資料1 「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表（小学校のみ抜粋）（文部科学省，2019）

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語
聞くこと	(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かたりする活動。	(ア) 自分のことや学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞いて，それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
	(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて，それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(イ) 日付や時刻，値段などを表す表現など，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取る活動。
	(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて，活字体で書かれた文字と結び付ける活動。	(ウ) 友達や家族，学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を，イラストや写真などを参考にしながら聞いて，必要な情報を得る活動。
読むこと		(ア) 活字体で書かれた文字を見て，どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
		(イ) 活字体で書かれた文字を見て，その読み方を適切に発音する活動。
		(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから，自分が必要とする情報を得る活動。
		(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を，絵本などの中から識別する活動。
話すこと [やり取り]	(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり，感謝や簡単な指示，依頼をして，それらに応じたりする活動。	(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり，相手に指示や依頼をして，それらに応じたり断ったりする活動。
	(イ) 自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら，好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。	(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを伝えたり，簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
	(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて，簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり，相手に関する簡単な質問をその場でしたりして，短い会話をする活動。
話すこと [発表]	(ア) 身の回りの物の数や形状などについて，人前で実物やイラスト，写真などを見せながら話す活動。	(ア) 時刻や日時，場所など，日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。
	(イ) 自分の好き嫌いや，欲しい物などについて，人前で実物やイラスト，写真などを見せながら話す活動。	(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。
	(ウ) 時刻や曜日，場所など，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物やイラスト，写真などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，学校生活や地域に関することなど，身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを話す活動。
書くこと		(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて，活字体の大文字，小文字を書く活動。
		(イ) 相手に伝えるなどの目的をもって，身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
		(ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって，語と語の区切りに注意して，身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
		(エ) 相手に伝えるなどの目的をもって，名前や年齢，趣味，好き嫌いなど，自分に関する簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

資料2「言語活動」作成と実施のためのチェックリスト（米田，2022）

チェック項目	
Ⅰ.含めるべき要素	
	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定している
	伝え合う目的や必然性がある
	意味のあるやり取りがある
	相手意識と中身がある
	目的を達成するために、必要な語句や文などを教師が取捨選択している
Ⅱ.題材	
	児童の興味・関心に合ったものになっている
	児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うようなものになっている
	児童にとって身近で具体的な場面設定や話題である
	児童が本当に伝えたいという意欲が高まるような題材である
	国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習した内容の活用をしている
	学校行事で扱う内容と関連付けている
	題材に必要な簡単な語句や基本的な表現を用いている
Ⅲ.他者への配慮	
	友達との関わりを大切にする
	児童が相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考える
	児童が自己理解・他者理解を深める
	友達の話す内容を聞いたりすることができる
Ⅳ.作成上・実施上の留意点	
	具体的な課題等を設定している
	児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられるようにしている
	コミュニケーションの楽しさを実感できるようにしている
	活動を様々な場面設定の中で行っている
	児童が言語活動の目的や、使用場面を意識して行うことができるようにしている
Ⅴ.指導方法/形態	
	ペアワークやグループワーク、学級全体に向けた発表などを入れている
	指導者から児童、児童から指導者、また児童同士など、多様な形態を採用している
	児童のMultiple Intelligenceや学習ストラテジーに留意し、様々な個性や特性を刺激できるような活動や技能を盛り込んでいる
	ペアワークやグループワーク、学級全体に向けた発表などを入れている
Ⅵ.指導に際して教師に求められるもの	
(1) 確かな教材研究	
	子供の既習語句や表現を把握している
	教科書に設定されている様々な活動を把握している
(2) 深い子供理解	
	全体に、また、どの子供にどんな質問や声掛けをすればいいかが分かっている
	簡単な英語による発問を用意している
(3) 「学習集団」づくり	
	学習規律がある学級を創っている
(4) 子供とやり取りをする英語力と背景知識の理解	
	言葉は、使いながら使えるようになるという意識を持つ
	子供とやり取り、子供同士でやり取りをして進める
	授業形態をどの教科等でも実践していること